第２回名張市総合計画審議会会議録（概要）

日　時：令和４年８月３日（水）１５時００分～１７時００分
場　所：名張市防災センター２階　会議室

＜出席者（五十音順）＞

埼玉大学キャリアセンター長/教授	石阪　督規	以下：会長
名張市観光協会副会長	市橋　雅美	以下：委員
公募	金野　千恵子	以下：委員
公募	澤田　二郎	以下：委員
公募	大黒　史智	以下：委員
名張市教育委員会委員	辻　　愛	以下：委員
伊賀地域防災総合事務所長	藤井　理江	以下：委員
民生委員児童委員協議会連合会会長	藤村　純子	以下：副会長
名張商工会議所青年部会長	宮本　雄基	以下：委員
名張市農業委員会会長	山﨑　祥生	以下：委員

※草部 豊美 委員（おじゃまる広場副代表）、野山　直人 委員（一般社団法人つなぐ代表）は欠席。また、名張市役所へのインターンシップ中の名張高校２年生（７名）が傍聴（※意見発表の時間が一部あり）

＜事務局＞

名張市　統括監 中野 雅夫、総合企画政策室 室長 今村 典義、係長 西口 英司

開会

※事務局より、名張高校２年生８名が名張市役所にインターンシップ（８月１日～３日）に来ており、各所属での業務体験、総合計画を学んでいる旨を報告。あわせて、本日の審議会を傍聴し、意見発表いただく旨を報告。

１．会長あいさつ

皆さん、こんにちは。ものすごく暑いんですけれども、ご参加いただきましてありがとうございます。前回に引き続きまして、今日は第２回目の審議会ということになります。皆様から前回、沢山のご意見を頂戴しました。本日事務局でまとめていただいてますので、まずはそれを共有させていただきたいと思います。前回、ポストイットを貼って、皆さんから意見をいただきました。口頭ですと意見が出ないのですが、ポストイットが沢山ありました。中を拝見しますと、若干皆様の基点の置いてる場所が違ってくるのが分かります。ちょっと気になったのは、子育てとか、あるいは教育、非常に意見が少なかったんですよね。ですので、まちづくりとか地域に関する思いというのが非常に強かったんです。コントラストが非常にありました。

今日は、前回言えなかったご意見も含めて、皆さまから意見をいただきたいと思いますし、先程冒頭にご紹介がありました通り、名張高校の生徒さんがいらっしゃってます。この計画は１０年間、この名張をどうするかという計画です。高校生の皆さんは、自分の１０年後のことをよく考えてみて下さい。この計画は、ある意味影響を与える、非常に大事な計画なんです。計画というと何となく難しいなって感じがしますけれど、日本をみると憲法という法律があります。最高法規です。これに従って日本の国が動いてるわけですけど、ちょっと飛躍していますけど、名張市のある種、憲法だと思うんですね。これに従って、様々な事業や計画、これがぶら下がっていくわけですから、総合計画はすごく大事なものになります。今日お集りいただいた皆さんは、有識者の方をはじめ、沢山の見解・見識をお持ちですので、今日は色々意見をいただきます。また、皆さんも、時間の許す限り、是非こういう名張にしたい、こういうことをして欲しい、その思いがあればですね、今日語っていただければと思います。２時間という時間、これ有効に使えればと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

２．第２回審議会の進め方（事務局）

※事務局より資料「第２回総合計画審議会資料」を説明。事務局案を提示し、ご審議いただく旨を報告。また、インターンシップで来られた名張高校生の考えた「名張の将来像（みんな平等で幸せな生活を営み自然と共生できる名張)」（平等、幸せ、自然、共生という４つを大切にしたまちになってほしいという思い）を生徒から報告いただいた。

（会長）

ありがとうございます。少し振り返りますが、４つのキーワードが出ました。平等、幸せ、自然、共生です。大人が議論すると、こういう言葉が出てこないです。総合計画をつくる時によく出てくるのは、成長、発展、豊かさ、という言葉が良く出ます。共生、平等という言葉は、我々は議論する機会がなかったと思うのですが、高校生の考え方は、これから名張が急速な経済発展を遂げるとか、更に発展して他のまちより上のまちになるという発想よりも、むしろ平等である、自然との共存・共生、多様な人材がみんな平等に暮らせるようなある種の幸せ、こういうものを望んでいるということで、そういう意見が多かったんですね。少し伺いたいのは、平等というのは、いま平等じゃないところがあるから、１０年後は平等であってほしいという面があるのですが、これはどうですか。平等じゃないところとは、どんなところでしょうか。今あまり平等に感じないところは。何かありますか。

（生徒）

動物の虐待が無くなって欲しいという意見が出て、動物と人間が共生できる、平等であるという願いが出ました。

（会長）

それともうひとつ、幸せという少し難しい考え方が出てきましたが、皆さんにとっての幸せとはどんなイメージですか。お金が沢山あるというイメージなのか、友達が沢山いるということな

のか、あるいは格差が無く、みんなが平等というイメージなのか。幸せのイメージは人によって全然違いますが。

（生徒）

先程おっしゃった、格差が無いというイメージです。

（会長）

お金を持っている人と持ってない人が共存し、格差を乱すような行動であったり、貧しい人を支援する仕組みがなかったり、そういうところを改善して欲しいということですか。他にどなたかいますか。

（生徒）

僕が思う幸せは、家族がニコニコ笑顔で。

（生徒）

親の仕事が忙しくて。だから一緒にいる時間というのが。

（会長）

そうですね、お仕事が忙しくて、家でみんなで過ごす時間が無いと。ちなみに日本は、非常に労働時間が長く、先進国の中の男性の労働時間がトップです。その代わり睡眠時間が凄く短い。働き過ぎであるとか、家庭を顧みる時間が無いところも解決していく必要がある問題。学校のこと、皆さん自身の日常に関わることでも良いです。委員の皆さんからもしよろしければ質問を。

（委員）

動物はどの範囲ですか。イノシシやサルも入るのか、それとも猫や犬などの可愛らしいペットを想定しているのでしょうか。

（会長）

今の質問は、獣害と呼んでいるのですが、畑や田んぼを荒らす動物（イノシシ、シカ、サル）がいて、農産物を荒らし、農家の方が困っていますが、そういう動物ではなく、おそらくペットや身近にいる動物ですかというご質問だと思います。ペットを虐待してしまう人もいるので、人間と同じようにするべきだということですね、すべての動物という意味ではおそらくなくて。他はよろしいですか。

（委員）

自然と共生、自然という言葉が出ていますが、名張のどんな自然が好きで、こうして守っていきたいと思っているか、そういうことがあれば教えていただけますか。

（会長）

名張には色々自然があると思います。好きなんだ、守っていったら良いなということについて、どうでしょう。

（生徒）

今見渡して見える緑が無くなると何か淋しいなあと。庭とかに緑があると癒されます。

（委員）

ありがとうございます。

（会長）

周りを見渡した時の日常的な緑、これが無くなるのは。他に皆さんどうですか。例えば、どこかの公園や皆さんがよく行くところで、ここが好きとか、この緑は残して欲しい、公園は残して欲しいというところはありますか。どちらかと言うと緑は、ご年配の方が比較的言う人多いですが、若い人も緑という感覚があったんですね。

（委員）

ガーデンシティ名張という提案をしました。確かに周囲は緑が濃いですが、実際まちを歩くと汚いところもあります、汚い看板とか。そういうものを取り払い、道路沿いや川沿いに緑を育成し、例えば小さい川沿いを整備し、人が歩ける歩道をつくったり、桜並木をつくると、緑豊かなまちだと思うのです。

（会長）

日常的な生活空間の中に緑を配置する。都市マスタープランや今後の用途を決める計画の中で具体的に決まっていくのですが、最上位にある総合計画の策定にあたり、今の考え方を反映させるのであれば、緑と自然、共生、そういうことも中に入れることになる気もします。

（委員）

特に、田園風景。

（会長）

田園は、国においてもデジタル田園構想として、その言葉を使っています、ありがとうございます。高校生にはよろしいですか。自分の若い頃のイメージと少し違うと思ってらっしゃる方もいるのではないですか。若い頃であれば、活気があるまちや、成長、発展、それから豊か、こういう言葉を使う傾向があると思うのですが、今の時代、どちらかと言うと、平等、共生、幸せ、それから自然という言葉が入ってくる。我々からすると非常に新鮮なんです。ありがとうございました。

３．第２回審議会

参考資料「新たな総合計画策定にかかる参考資料（統計関係データ)」、「職員アンケート１(１０年後目指す姿）)、「職員アンケート２（必要な施策)」、また、当日配布資料「新たな総合計画策定にかかる基本的な考え方（案)」について、会長より補足説明等いただく。

（会長）

それでは、議事を戻していきたいと思います。事務局から説明がありましたが、後半の資料編は名張の基本的な統計資料です。前回、エビデンスのお話もありました。名張はどういう状況かということですが、人口は減少傾向にあります。世帯数はそこまで減っておらず、人口が減っているということ、産業別の部分もあります。この資料はもし必要があればその時で良いですか。

（事務局）

はい、参考資料としてまた。

（会長）

何か気になるところがありましたら、適時ご発言いただければと思います。ちなみに「理想のまちの将来像（１５ページ)」で、重点的に取り組むべきことに関して言いますと、圧倒的に多いのは福祉、介護。回答者はご高齢の方が多い傾向にあるのかもしれません。健康づくり、地域医療、医療や福祉介護、これが非常に高いことになっています。自然は高くなく真ん中あたりで、下の方にいくと、スポーツ、エネルギー、農林業、伝統文化となっています。医療、介護、福祉に傾倒している傾向が見られます。それから、名張市職員アンケートがございます。「１０年後どのような名張市を目指すべきか」の問いに対し、一番多いのが出産・子育て支援や児童福祉、安心して生み育てるなどの子育て支援。２番目が医療・福祉、その次に商工業・産業とあります。市職員の特性で、子育て世代が多かったからかもしれません。市としてやるべきこととして、上位２つはやっぱり必要だと。それから先程と一緒ですが、子育て支援と医療、これが非常に高い。保健・医療、福祉のネットワークを合わせると半数が、子育て、医療、福祉と。皆さんからの意見では比較的少なかった医療、福祉が、市のアンケートや職員アンケートでは、その充実が名張市には必要という強い思いを感じます。事務局で整理いただきました資料６ページの４つの重点プロジェクトの関係性について表をつくっていただきました。これは事務局のたたき台、サンプルです。重点プロジェクトは、市が重点的に進めていくプロジェクトです。これがまず３つの柱があり、真ん中にシティプロモーションという考え方があります。この絵は皆さんのご意見を反映させています。ひとつは産業のまちで、前回、観光業を中心に若者の安定的な雇用、産業を確保しなければ若い人たちは外へ出て行ってしまう。例えば、自分の希望の就職先、進学先がなければ、多分大阪に行ってしまうわけです。そうならないためには、名張も沢山多様な働く場所を確保する、これがまずひとつ非常に強い意見として皆さんからいただきました。これが産業のまちです。多様な産業、これを支援する。そしてもう一つは、安心・安全なまち。これは非常にざっくりとなっていますが、先程の医療や福祉、安心して子どもを産み育てられる、あるいは、怪我をした、病気になった時に、直ぐに診てもらえる、そういう医療のこと。それから、介護が発

生した時にそれをサポートしてもらえる体制がある、こういった安心・安全、これは確保しなければいけない。特に、市職員の皆さんや市民の方々の強い要望ですね、医療、福祉の充実は。今回、医療・福祉とせず、安心・安全なまちと広く括っています。この辺りは、皆さんからご意見をいただけると思います。それからもうひとつ、若者参画のまちで、若者がまちづくり、特にこういったディスカッションに参加する仕組みづくりをやっていかないといけないということです。高校生の皆さんはインターンシップで来てますけれど、普通の若者たちがどうしているか。地域のことやまちづくりなど、あまり関心がない人が多いんです。一般的に若者は、自分の住んでいるところや、自分の地域の将来に関心が無いのですが、それはそういう仕組みや仕掛けが無いからです。若者の意見を聞くこともなければ、学校は勉強をする場所で、まちのことを考えた事がないとなれば尚更です。やはり若者に入ってきてもらい、自分たちがこのまちを１０年後、どういうまちにしたいのか、あるいは、どんなまちにしていくためにどんなことが出来るのか考える、こういう仕組みをつくっていかないといけないという意見をいただきましたので、若者参画のまちとさせて頂きました、言葉がこれで良いかどうかまた別の議論ですが。３本の柱のうちの１つです。真ん中にあるのが、シティプロモーション。市長からシティプロモーションの考え方が大事だということをご指示いただいています。名張市民が自分たちのまちに誇りを持ち、それを発信したり、地域内に共有する仕組みをつくっていく必要があると。その背景にはＤＸ化や、市民と市民がつながるような新たなまちづくり、地域づくりの在り方も考えていかなければならない、そういう広い意味でのシティプロモーションが、真ん中にあるかたちになっています。３つの柱とシティプロモーションでまとめていただきました。

それから本日、追加配布の資料がありました。これは市の総合計画策定に関わる基本的な考え方の案です。少し読み上げますと、「人口減少、少子高齢化が本格化し、働く世代の減少による税収の影響、高齢化に伴う社会保障関連費の増加が懸念されます。加えて、新たな感染症の世界的な流行をはじめ、国際情勢の急激な変化や想定外の自然災害の発生など社会の在り方や仕組みが大きな転換期を迎えようとしています。このような不確実、不安定な時代背景において柔軟に対応していくため、本計画の作成に向けては、次の考え方を基本とします」と。これは、社会情勢が非常に不確定、不安定な状況にあり、そういう中で、今まで通りのことをやっていたのではなかなか難しい。どう対応していくのか。１つ目は、「地域社会の活力維持に向け人口減少対策に向けた取組を進めますが、日本全体で少子高齢化は一層進行し、人口減少傾向は継続します。そのような現状を踏まえながら、今後１０年先の目指すまちの将来像を定めます」と。つまり、人口を増やすということは、今のこの状況では無理だと、そういう中で昔みたいに産めよ増やせよ、あるいは成長、発展ではなくて、人口減少はあるけど、もう見込めない中で、ではどんなまちを目指すのか、ある意味発想の転換ですね。これはむしろ後ろにある高校生の考え方（みんな平等で幸せな生活を営み自然と共生できる名張）が非常に役に立ちます。これはまさに、人口減少時代のこれからのまちの将来なんですよね。非常に分かりやすくまとめていただきました。だからといって、衰退していけば良いという訳ではなく、新たなまちの方向性や考え方、これを考えていかなければいけないということです。それから２つ目、今度は名張らしさということですね。「名張らしさを生かした個性的で持続可能な未来を目指すため、これまで市民の皆さんと共に進めてきた地域共生のまちづくりを大きな土台とするとともに、地域の魅力を市民参加で積極的に

発散し、これまでの取組を次代に引き継ぐことを目指します」と。これは名張らしさがどこにあるのかということです。ある意味、まちとして成熟しているので、これというキラーコンテンツがないのかもしれませんが、他の市とは違う名張らしさ、ここにあるんだということをアピールしてもいいんじゃないかと。それから、名張は伝統的に各地域ごと、まちづくりの委員会があり、活発にされています。あえて課題を挙げますと、次世代への継承がなかなか進んでいない。まちづくりの第１世代が高齢化し、その次の世代に移行ができていないということにどう向き合うか。若い人が地域づくりやまちづくりに参加してもらうための工夫が求められています。今までみたいに、この土地に住んでいるから自治会に入ってとか、まちづくりをやってという時代じゃない訳なんですね。そこに何らかのインセンティブが必要かもしれません。場合によっては、その若者にとってメリットがなければ、今の若者は参加してくれません。そういう中で、次世代継承をどのように行うか、これが２つ目です。それから３つ目としては、財源と職員が限られています。増やせば良いという訳ではなく、「限られた財源や職員において、多様化する市民ニーズや地域課題への対応に向けては、事業者等様々な主体と連携強化を図ると共に、県及び近隣市町との幅広い分野で相互に補完、協力する広域的な関係づくりにより重層的な行政運営を目指します」と。これはむしろ行政に対する要求・要望でもあると思うのですが、財源や職員は限られます。限られた中で、今まで通りのサービスやこれ以上のサービスをやろうとすると、もう行政だけでは無理となります。そうなってくると、民間や市民の方と連携する仕組みをつくっていかなければ運営することは難しい。簡単な例で言うと、地方にある図書館や保育園など民営化しています。民営化の理由は、ある種マンパワーが足りない、財源も無い、そういう中で、民の力を入れないと行政運営が難しいという時代がやって来る訳なんです。そうなった時に、民とどういう役割分担をしてやっていけば良いのか。あるいは、民のノウハウや発想をどうやって行政の中に生かしていくのか。そういう事も必要なんです。それから、名張単独でできることは限られています。むしろ広域連携で色んなことを進めていく方が、利便性やスケールメリットが増えるということもあります。名張の場合、合併の経緯で、他との広域的な連携ができなかったのですが、今後は、名張単独ではなく、様々な分野で、他の地域と連携強化を図るということも求められます。当時の合併のように、くっついてしまえばそれで良いというのではなく、戦略的な連携が必要になってきます。名張にとってメリットがある連携や繋がりみたいなもの、場合によっては、近隣ではなく東京や別の地域とつながっても良い。今やオンラインもありますし、色んなつながり方ができるので、新たな連携やそういった仕組みづくりをやっていく必要があると思います。

＜ディスカッション＞
○重点プロジェクトについて
○目指すべき姿及び基本目標について

（会長）

ここからディスカッションに入っていきたいと思います。皆さんから、ご忌憚なきご意見をいただきたいと思います。まずは、産業のまち、安心・安全なまち、若者参画のまち、資料６ページですが、皆さんがどのように思われたのか、これをまず伺っていきたいと思います。

（委員）

時代背景ということがあります。これからの名張は、福祉、医療の充実が必要と。先の将来を見据えた場合、高齢化の懸念が職員にあると思います。

（会長）

若者参画は良いキャッチフレーズでしょうか。

（委員）

良いと思います。

（会長）

発展とか、産業のまちづくりも大事ですが、先程話しがありましたが自然とか、これは守っていく。

（委員）

それはもう、当然農業をしていますので。

（会長）

そうですね。農業や自然は、このまちにとって大事だと思います。位置付けとしては、自然との共生、農業の共生という発想ですね。

（委員）

これまで農地は１，０００～１，５００ヘクタールでしたが、１，０００ヘクタールちょっとになっています。せっかく圃場整備をしながら農地が山に戻っていく、もう農業は守りの農業になりきっているような気もします。将来的に考えますと、農業していただく様な状況にして、例えば集落営農とか次世代への継承など、やはりテコ入れして、農業を守っていかなくてはならないと感じています。

（会長）

ありがとうございます。続いてお願いします。

（委員）

安心・安全なまちが、大きく膨らみすぎて分かりにくいと思います。これだと防災等の意見になってくるのかと。意見のあった福祉、医療、子育てがどこに含まれるのか。これも含めるとなるとちょっと弱いかなと捉えてしまいます。子育てや医療の意見が職員からも集中しているのであれば、その部分をひとつの柱として、重点プロジェクトが３つか４つかは議論が必要ですが。やはりそれも表に出し、産業のまち、若者参画は、比較的分かりやすいのですが、安心・安全の

まちは中身がぼやけてしまっています。その部分で柱をつくっても良いのではないかと思いますし、その負担を得るためには、名張市の財源だけでは足りないと。産業に力を入れ、ある程度財源を持たないと実現不可能ですし。現状の名張市でも、建設工事にあたっても、名張市以外の事業者が沢山います。名張市内の建設業者や土木業者で完結できるが、外部から入ってきています。単価の問題等でそういった事象もあり、逆に市内事業者が外部に出ざるを得ない現象もあります。ある程度、近隣市町村で集約して色んな公共工事や介護施設の管理など、集約できるかたちになれば、市に財源が残るし、地域内の事業者も満足かなと。

（会長）

それは、民との連携ですね。

（委員）

そういうかたちを少しでも近づけることができたら、事業所も財源があれば協力ができると思います。

（会長）

産業のまちとなると、他所から色んな企業を入れるだけでなく、今ある企業を育てていかなくてはいけない、そういう発想も大事ですよね。ありがとうございました。続いてお願いします。

（委員）

若者の参画のまちは、非常にキャッチな（捕らえる）言葉ですが、裏返すと、そこだけに固まり過ぎている感が、市民の方は感じるかもしれません。というのは、これまで名張市では、地域共生という良いかたちで、積極的な市民参画によるまちづくりをしてこられました。その次のステップとして、あえて若者をキャッチとして出すのも良いのですが、じゃあは今まではどうだったんだと。若い世代だけではなく、幅広く多様な方々が多様なかたちで共生していく、参画するというフレーズの方が良いのでは。若い方の参画だけの言葉になってしまうと、年配の方からは若者だけなのかとか、逆に若い方からすると色んな事を学ばなければならなくて、私たちばかり大きな負担をさせるなととれてしまう部分もあるので、あまり絞り込みすぎるのはどうなのかなと。多様な、地域共生、そういった広い位置づけで定義される方が良いのかなと思います。

（会長）

考え方として良いわけで、表現の仕方ですね。

（委員）

そうです、考え方は間違っていなくて。若いの定義も難しくなると思います。年配の方からしたら、６０代でも若いとなります。若いをどこまで絞り込むのかは、慎重にした方が良いのかなと感じました。

（会長）

ありがとうございました。ちなみに、若者の定義、日本では何歳までが若者となるか。若者支援、若者対策事業と言う時に、ここにいる人達は若者かどうか。一般的には３５才と言えます。若者就労支援サポートステーションなんかに行くと４０歳まで大丈夫です。今の時代ですと、３０代であれば基本的に若者となります。ちなみに、世界で３０代で若者という国は日本だけです。ヨーロッパやアメリカはもっと下です。若者支援は１０代～２０代前半を指しますが、日本では、若者というと３０代、場合によっては、４０才までとなります。おそらく行政が若者と言う時にイメージしているのは、やっぱり４０才ぐらいまで含めませんか。

（事務局）

事務局３人それぞれで考え方が違うかもしれません。

（会長）

そうなんです。日本では、若者の幅を広く取っている。ニートやフリーター等の言葉を使って３０代の人でも普通に使います。若者の感覚は大事というのは分かるのですが、総合計画という大きな計画の中で、若者を一つの柱にすると、そうではない人も含めて、全員が共生、参画ということで進まないのではないかという、そんな懸念もあると。では続いてご意見を。

（委員）

私も同じことを思いました。若者参画というのは、若い人に永住して欲しい、名張にずっと住んでもらいたい気持ちの表れと思うのですが、若者というより、全員参加型の姿勢、みんなが名張のサポーターというイメージの方が、柱にするのであれば、その方が良いですね。

（会長）

全員参加型、共生など、高校生たちからも話しがありましたが、若者だけでなく、色んな人たちと連携し合いながら、オール名張でまちをつくっていく、そういう発想だと思うのですが、その方がすっきりすると。

（委員）

はい。

（会長）

ただ理念として、跡継ぎ世代を含め若者が参画できてないというお話しから、あえて若者参画という言葉を入れたのですが、柱としてみると、他の世代の人から浮いてしまうということですね。ありがとうございました。では、続いてお願いします。

（委員）

一番上の産業のまちが、最重要になっていることは理解ができます。経済的な基盤が無く、将

来を見通して非常に難しい状況にきていますから、産業のまちを一番上に持ってくるのは良く分かるのですが、元々名張の発展は、ベッドタウン化で人口が急に膨れたまちですから、産業をポンと持ってきてもピンとこないです。名張の中には色んな基盤はあるのでしょうが、先程おっしゃった農業とか、他の所には無く、名張には潤沢にあるような経済ツールを、産業のまちの具体的なイメージとして、もう少しブラッシュアップするような表現の仕方がないのだろうかと思います。少し話しが飛びますが、前回、観光の話が出ました。名張にはあまりピンとくるものが無いという話がありましたが、伊賀と名張は切っても切れないような、観光資源が非常に似通っています。忍者も含め非常に似通ったものがあるので、医療だけでなく、近隣の伊賀市と共同で戦略的な取組があってもいいのかなと思います。農業も伊賀市と非常に似通ったところがありますから、今後人口が減少していく中、医療も含め、また、ごみ処理も青山でやってますが、単独で生き残ることは難しいと思います。この産業に関しても観光に関しても、伊賀市との共同で。盆地で、ある意味他所とは隔絶でくっつき難いですから。農業、自然というところは、外部資本も含め、支援を仰いでやっていくかたちが望ましいのではないかということで、産業のまちは良いのですが、一捻り欲しいなと思います。

（会長）

ありがとうございました。少し整理していこうと思います。１つは、産業のまちと謳う以上、どんな産業に力を入れるのか、どんな産業に重点を置くのかということも、この段階できちんと出きてないといけないですねと。外に他の工場がありますとか、単に名張市は色んな多様な産業がありますとか、産業のまちと言える程は、多分言えない、他でもみんなやっていることだから。そういう意味では、産業に対する戦略性が求められるということ。それからもう１つは、広域的な話しが出ました。産業を名張だけで完結をさせてやっていくのではなく、他の地域とも連携しながら伊賀圏域全体として、どのような産業を育てていくのか。むしろ名張にとってある種新しいタイプの考え方ですね。こういったものを取り入れていかないと、産業のまちとして特出しする以上は、月並みなことをやっている訳にはいかない訳です。

（委員）

そうです。ですから、具体的な情報を持っていないですが、農業特区とか外部資本を、あるいは全く違う発想の人材を借りてこないと、名張だけ伊賀市だけで頑張ろうとしても、限界があるのかなと。そういう意味では、農業特区などの切り口をもっとこの中に盛り込んで欲しいというイメージがあります。

（会長）

特に、県や国の様々な制度を利用しながらですね。

（委員）

今農業の話しでしたが、農業は伊賀市のＪＡと、伊賀南部のＪＡが５年前に合併し、伊賀米振興、伊賀牛振興などの生産振興をしている状況です。

（会長）

農業は名張の地域をこえてやっており、農協がもう今、行政の地域をこえている状況であると。

※１６時近くとなり、審議会を傍聴していた高校生それぞれから最後に感想をいただき、高校生は退席（１名だけ最後まで傍聴）。

（会長）

ありがとうございます。高校生の皆さんには、議論の一部を切り取ったかたちでお聴きいただきましたが、しばらくこういう形で審議会が続いていきます。皆さんから色んな意見をいただいて、これを今度はかたちにしていく作業が出てきます。ひょっとするとまた、高校生の皆さんのご意見を伺ったりする機会もあるかもしれません。あるいは市民の皆さんに意見を募集ということもあるかもしれませんが、是非そういった時には、これからの１０年間、名張の非常に大事な１０年間ですから、是非皆さんの意見を言っていただければと思います。行政の場合は、いつでもウエルカムということで、色んな自分たちの考え、意見があったらお寄せ下さい。今日は１時間にわたる長時間、こういったかたちで聞いていただきましたけれども、どうもありがとうございました。皆さんは一旦これで終了となります。

（会長）

それでは、あらためて進めさせていただきます。農業の話しも出ました。それから、若者というキーワードの出し方。この辺り全世代型や共生という考え方もありました。それから広域的な連携、産業のまちという以上はどんな産業を目指すのかもきちんと示さないと、単純に業として産業があるだけでは、産業のまちとして謳えないのでと。続いて、お願いします。

（委員）

印象なのですが、上手に資料をまとめられていると思います。ざっと読み、気になりましたのは、今の世の中の風潮で、人口減少が駄目というのがあります。もう６０年程前ですが、私が小学生の頃、人口が増えて困ると先生が言ってました。１億人になればお米が食べられないと。私の気持ちの中には、人口が増えると困るというのが少し残っていました。適正な人口には答えが無いと思います。人口減少ですが、いま８万人弱の名張市が２０年後に６万人となっても、ひょっとすると悪いことではないかもしれないと。人数が少なくなるので新たな施設整備もしなくて良いですし、すべてのことが上手くいくのではないかと。２０年後には、現在７５才の人は少なくなるので、人口減少と高齢化がマイナスというイメージを少し変えて考えた方が良いかなという気がしました。

（会長）

おっしゃる通りですが、私も色んな計画を拝見しますが、それを堂々と謳うところは無いですね。行政とすれば、人口が減ることは危機的な状況で、とにかく増やさなければいけない。出生

率を上げて、そこからの流入も増やさなければいけないというつもりで計画をつくっていますので。北川市長がどう考えているか分かりませんが、発想として、人口が仮に減っても、それに伴う色んなサービスや、まちがまわるような循環があれば、そんなにデメリットを感じないという言い方はできると思うのですが、減った方が良いのではないかとか、場合によっては、減ることが前提になってくると、自治体としては戸惑うのではないでしょうか。

（委員）

今のご意見ですが、全て間違っているとは言いませんが、北川市長も最初のスピーチで、人口減少はできるだけ食い止めたい、その中心にあるのが産業だということで、このプロジェクトもできあがっていると思います。ですから、部分的には間違っていないんでしょうけれども、そこを置く訳にはいかないというのが１点です。それからもうひとつは、医療とか行政の基礎的な部分は、ある一定の人口を確保しないとそれも回らないです。人口がどんどん減るというのは、成り立たない議論ではないのかなと思います。伊賀との連携の話も出ましたが、基本的に医療を支えるために、今も救急医療は合併になっていますが、救急医療のお医者さんを、看護師さんを、あるいは施設を運営するために、何人の人口が必要かというのは計算上出るはずです。そこのところだけは、絶対食い止めないと。ここで謳っている安心・安全なまちなんて、絶対出来ない訳なんですよ。

（会長）

世界で見ると人口は減ったり増えたりしますが、自治体に関して言えば、他所から人が来て、増えるという自治体は実際にあるのです。例えば、明石市は子育て施策を重点化し、人口が実際増えています。それから、東京方面でも、流山市は、周りからどんどん人が入ってきています。日本全体で見るとパイの奪い合いになりますが、ある意味名張が非常に個性的でユニークな施策をやってます、若い子が住みたいまちになりましたとなれば、近隣から、また人が入ってくることもありうるということです。ただ、日本全体でみると、人口は減り、高齢化は進んでいくと思います。だから、そういう中で名張が生き残るために、あるいはマンパワーや財源を最適に確保するために何をしていくのかということになります。

（委員）

趣味で歴史をやっており、人口を見ますと、明治維新が終わった頃は６千万人、私が子どもの頃に１億人になりかけて、７０歳の時に１億２，０００～３，０００万人、江戸時代初期は３０００万人です。それでも日本は成り立ってましたので、明治維新頃までに戻ってもいいのではないかという気はします。

（委員）

そういう話しをもってきますと議論が成り立たないと思います。

（会長）

それは、お考えとしては分かりますが、それは置いておきましょう。

（委員）

申し訳ありません。それは自分でも分かっており、あえて言いましたのは、大きな流れがあり、その流れの中で、今はマイナスと言ってることが、本当にマイナスかどうか考えないといけないという気がしたのです。

（会長）

はい。価値観や見方の違い、おそらくそういうことだと思います。続いてお願いします。

（委員）

子どもたちの話しの中で自然が大事ということ、また、ガーデンシティ名張とか、ここに住んで良かったなと思える地になって、税収を増やして、豊かなまちにしていくという考え方があると思います。名張の産業では、農業と林業の就職率が非常に低いので、それを上げていくために、高校生や中学生に体験や学習があれば良いなと思います。私は宮城県出身で、名取市に大きな植物園がありました、津波で今は駄目になりましたが。そこで自然を教えるセミナーを毎日行っており、市民の方が１００人程度参加されていました。そのような教育や体験が人には必要と思います。何が平等か、ジェンダーとは何か、ＳＤＧｓってなんだろうか、分からないことがいっぱいありますから、共通認識できる機会があればと思います。また、安心・安全という点で、まちの保健室のような良い仕組みが他自治体にはないと思いますが、自分の生活を守るための活用の仕方を教えてもらえるコーナーも必要と思います。名張に住み続けて良かったと思うような名張をつくり、若い人に来てもらい、税を納めてもらい、色んな事業を進め活性化する、そのような方法が良いと思います。先程、若者参画とありましたが、若者だけでなく、縦の流れと言いますか、年長者から若い方に、若い方から小さい方にという流れがあるまちづくりをしていくのが良いかなと思います。また、市民農園をされている方も沢山います。自己消費できない分は、農家の方と市民農園と農協でどうなっているのかなと思います。

（会長）

みんなの発想は、大きな転換と思っていて、例えば、産業といった時、大きな会社で従業員として働くということが基本という考え方ではなく、むしろそれぞれ一人ひとりが会社のオーナーで、例えば、農園で耕作して自らインターネットで販売するなど。すると、自分のところにお金が戻ってくる。こういうビジネスも、今後、名張で支援がされるのであれば、色んな起業家や投資家が集まる可能性があります。名張で面白いことになっている、市民一人ひとりがみんな会社のオーナーになり、色んなビジネスを面白く展開してると。若い人からすると魅力的なまちです。それから、もうひとつは、まちづくりの話しです。若い人だけでなく、多世代がつながるという点も非常に大事と思っております。ＳＤＧｓやジェンダー、平等など昨今の色んな考え方ですね、こういったことを若い人たちが学び取り、また名張の中で自立して何か色んなことをしていく、

そういうストーリーをつくっていかないと、名張で勉強し、大学に入り、他所へ出てしまい、戻ってこない、戻ろうにも仕事が無い、自分の専門知識を生かす場が無いということでは。こうなると、どんどん人口流失となってしまい、他所から見て名張に住みたい、あるいは１度外に出た若者が戻って来たいと思えるような魅力的な、産業でいう業をつくっていかなければいけないのかなと思います。単に工場を誘致し、従業員が沢山います、だから名張に来てくださいという考え方では、産業のまちと言うほど、ＰＲできないと思います。

（委員）

安心・安全なまちと見て、防災系と思いました。安心・安全なまちは、すごく大事なんです。東京から帰って来た子どもと話をすると、地震がやっぱり怖いと。防災を見ると名張は本当に地震が少ない。河川改修がしっかりしており、今また大きな河川改修をしている。全国的に、今は雨が降って地域が氾濫して、これまでとは考えられないことが起きています。もちろん、直撃なら分かりませんが、名張は本当に少ないと思います。私は伊勢湾台風以後に生まれずっとここに住んでます。実家が川の近くだったので、伊勢湾台風で浸かっていますが、それ以降は、名張の河川が大きく氾濫するようなことはほぼないです、小さいのはありますが。

（会長）

人災につながるような大きなものはないということですね。それはもう誇れますね、三重県は災害が多いので。

（委員）

そうなんです。子どもたちを育てていく時に、安心・安全です。

（会長）

むしろ、安心・安全なまちで悪い事ではないということですね。名張のある種のＰＲポイントでもあると。

（委員）

先程言ったみたいに、もう１本、柱があるとしたら子育てになると思います。

（会長）

今のこれは、むしろ防災、防犯ですね。それとは別に、例えば、子育てみたいなものを柱として、あえてつくった方がと。

（委員）

本当に防犯面でも、（犯罪等が）少ないと思っています。

（会長）

安心・安全というのを、本来の防災、防犯のしっかりしたまちということでＰＲすることができるんですね。

（委員）

はい、そうではないかなと。他地域に行くとそういうことをすごく心配しています、うちの子どももハザードマップを見て、住まいを決めましたから。やはりこういうことは大事なのではないかなと思います。

（会長）

実際にお子様が戻ってくる、もし名張に住むならば、安全だからということですね。

（委員）

そういうことであったり、緑や福祉が充実してると思います、子どもたちの無償化も。

（会長）

市政の中で、ある程度できるところはやってきたという感じでしょうね。

（委員）

前面に出していくなら、もう少しホームページ等でアピールできるような市のホームページを変えるとか。何が書いてあるのか、どこを探してみたら良いのか、ホームページを見ても分かりにくいです。

（会長）

シティプロモーションに関係がある。

（委員）

はい、そうですね。

（会長）

観光のことで聞きたいのですが、産業のまちとして、大きな柱と思っているのですが、いかがですか。

（委員）

先程、生徒さんが自然のことを結構言ってくれました。名張が自然豊かで良い所なので、そこを結構見てくれているのだなと思った時に、赤目も香落渓も特定公園の中に名張市が入っていて、本当に豊かな、その中で育まれていく心というのがあると思います。赤目しかないと言われますが、伊賀米、伊賀牛、伊賀酒があって、それが十分観光資源ではないかなと思います。

（会長）

この３つは有名ですね。逆にその次が難しいのではないですか。

（委員）

先日、高校生や大学生と一緒にミスコレという音楽イベントを開催しました。３，０００人ぐらい来ました、朝日公園（ＡＤＳホール裏の公園）に。高校生がクラウドファンディングで人を集めるのはすごいです。また、先日の花火大会も見ていただいたと思うのですが、名張に沢山若い人たちが来てくれました、まだまだ集客というか、お客さんをイベントで呼べると。市の財政を考えるとハード面が難しいと思います。だったら、ある程度ソフト面で、若い人たちにも、お年を召された方にも、私らの年代の者もみんな一緒になってと思います。年齢の上の方たちから学んで、子どもたちにも教えられますし。

（会長）

世代間の継承だったり、逆にお互いに学び合う共生だったり。

（委員）

誰かがやる、若い人たちが考えたら良いではなくて、一緒に考えていくと。

（会長）

今お話しを伺って思いましたのは、真ん中にシティプロモーションがありますが、ここはひょっとすると、共生や連携、真ん中に色んな世代間や色んな人達が連携し合って名張をつくっていく、その方が分かりやすいかもしれません。産業のまち、医療・保健など色々ありますが、行政だけではなく、色んな世代の人たちが助け合いながら、支え合いながら、まちづくりをする、だから、共生は真ん中に入りますと。今までだったら単独で、行政なら行政、民間なら民間、それぞれが一生懸命自分たちのことだけをやっていたのですが、まずひとつは、横の連携、つながり、色んな行事や行政・民間との連携、それから、世代間の影響ですね、縦の連携のお話しも含め。こういった連携や共生というものが真ん中にあり、それぞれの産業や、防災・防犯、それから医療・福祉、こういったものを支え合っていく、皆さんの意見をまとめると、こういう仕組みが名張のイメージという気がします。

（委員）

安心・安全なまち、名張は安全ということで私も認識していますが、１８５３年～１８５４年に大地震が伊賀上野にありました、名張も。このことは忘れてはいけないと思いますし、この事実は知っておかないといけないと思います。

（会長）

はい、ありがとうございます。では、次お願いします。

（副会長）

シティプロモーションの周りに図が書いてありますが、２～３週間前に持続可能な地域づくりの講演を聴き、同じ図柄で真ん中に地域づくりとあり、これから地域づくりで色んな商売をしていこうとか、若者を取り入れようとか、みんなで共同して生活をしていくというような、持続可能なものをつくるには１人が頑張るだけではできないから、まとめとしてまちづくりがあり、その周囲に、人が手を差し伸べて、ひとつのものをつくっていき、大きな地域づくりができるという講演を受けました。地域づくりに若い人が参加していないと言われていますが、自分の地域では、地域のまちづくりに若者がよく参加してくれてます。青少年育成の関係では、部会の部長さんの子どもさんが大学生で、塾に行ってない子どもを地元で教えたり、運動させたりと取り組んでくれています。そういう３０代から５０代ぐらいまでの若者が、沢山まちづくりに参加いただいて、色んな意見を交わしながらしています。そういう仕組みをもっていくと、私は７０歳を超えていますが、その年代の人がまちづくりをつくってきて、同じような人がつないでいって、やはり時代とともに変えていかないといけないということで、女性参画や若者を入れてまちづくりをしていこうとなった時に、土日に名張に帰って来てまちづくりに参加したいという人が増えたり、そういうのを見ていると捨てたものではないなと思っています。みんなが参加しやすいような、若者だけではなく、年配の方など皆が参加できて、ひとつのものをつくっていくまちづくりを目指しています。大きなことを求めるより、コツコツとしていくことが持続可能になると思いますので、みんなに分かりやすい、参加しやすいような目標を立てていけば良いと思います。分かりやすい取組を、参加しやすい目標、やさしい目標にして、硬い言葉でアピールするよりも、また、持続可能でないといけないと思います。

（会長）

真ん中がシティプロモーションでは難しいですね。

（副会長）

横文字が多くなってきています。

（会長）

賛否があると思いますけど。

（委員）

（シティプロモーションの意味が）わからない。

（委員）

私もわかりません。

（副会長）

サスティナブルな（持続可能な）地域づくりと言われたが、持続可能な地域づくりと言われた方が分かりやすかった。みんなが分かりやすい言葉にした方が良いと思います。

（会長）

トップの意向が大きく、例えば、都知事は横文字がすごく好きですね。北川市長が、横文字が好きか嫌いか分かりませんが、好きな方も結構いるんです。横文字は意外にオリジナルのものが広まって歩くんですよね。みんながよく分からないと逆に惹きつける場合もあるので、一概に駄目だと言えないのですが、ただ分かりにくいのは分かりにくいと言う話しです。この辺りのお話しは分かります。

（事務局）

１回目の審議会での議論をまとめさせていだき、その中で、シティプロモーションとさせていただいたのは、アプリの活用や、名張市が色んな取組をやっているけれども、それが伝わっていない、また、何かに尖った取組とか、その色んなものについて、特化したものにしたら良いのではないかという意見がありました。それをまとめると、何かを尖らすということは目立つ、目立たすという大きな意味で捉えて、その情報を市内外の方がみんな得られるようなということを包括的に考えまして、シティプロモーションという括りにさせていただきました。何に尖るかは、また別で次の話しでありますが、そういうかたちの意味合いでシティプロモーションとさせていただきました。真ん中の部分が共生ということでも問題ないと思います。

（会長）

今の説明ですと、シティプロモーションが真ん中というよりも、どちらかというと全部を含むイメージでしょうか、輪の全部がシティプロモーション。今の話しをまとめると、真ん中は共生や参画でもいいですね。あと皆さんから言われたキーワードありますか。真ん中は、非常に大切な理念ですね。すべてのまちづくりに共通するような、理念みたいなものは真ん中にあって、例えば、産業にしても、安心・安全にしても、医療福祉にしても、共生や参画という発想は必要だと。農業でももちろんそうです、今までみたいに単独でやるのではなくて。共生、参画、連携、このような感じですかね。広域連携もですね。それが真ん中に理念としてあり、まちがそれぞれ、色んなまちづくりがあります。その全体を含むかたちで、シティプロモーション、シティプロモーション的な発想ですね。外にどう見せるか、中でどう共有するか、アプリを使ってそれを進めていくか。

（事務局）

真ん中の単語としては、広域連携も含め、共生、参画、連携というかたちで。言葉は別ですが、産業のまちの産業は、農業も含めての話しになります。

（会長）

そうですね、観光、農業を含めて産業ですね。

安心・安全については、賛否が色々ありましたので、安心・安全というのは、本当に防災、防犯という意味で使う場合もあれば、ここの場合は、福祉的な医療を含んでいるんですね、子育て支援について。

（事務局）

子育ては、子育てのまちとして、特出しされた方がという意見もありました。

（会長）

意見もありましたから、安心・安全に含むか、それとも切り離して子育てとするか。

（事務局）

若者参画のまちも、どちらかと言うと全世代参画のまちというようなイメージ。

（会長）

真ん中にそういったものが入っているので、あえて若者参画という言葉を使わなくても、これは多分まちづくりですね。どういう言い方が良いか分からないですけど。

（事務局）

若者という部分に絞り過ぎず、もう少し広い範囲での表現の方が良いのではないかというご意見で、表現についてはまた検討する、そういう意味合いでこの部分は変えていった方が良いのではないか、という整理でよろしいでしょうか。

（会長）

そうですね。おそらくこの重点プロジェクトの中のところに実際、若者参画が必要であれば、そういう文言もあります。

（事務局）

イメージが変わると思いますが、事務局の方でも考えさせていただきます。

（副会長）

産業のまちというところで、広域連携で伊賀市との共同など聞かせていただきましたが、観光の赤目四十八滝ですが（道が）行き止まりなんです。ですので、観光客もなかなか来ないと言いますか、室生、東吉野、室生、宇陀の広域で、奈良県との交流で観光プロジェクトができています。室生寺や長谷寺など、向こうから赤目の滝に続く道を奈良県と今話しが出てきているような話しも聞いたのですが、そのようなプロジェクトが実現すれば。基幹道路がひとつ増えたら、もう少し産業や観光が伸びるのではないかと思います。伊賀市との広域だけでなく、もっと広い奈

良県との連携も。

（会長）

もちろん伊賀だけでなく、奈良や、それから関西万博もあるので、大阪との連携も。

（副会長）

そのようにして観光を伸ばし、地元に産業をもっていくのが良いかなと思います。

（会長）

観光だけと違って、いわゆる交流人口・関係人口にも結び付きます。つまり、名張のファンを増やす、あるいは１回来てもらい楽しんでもらって、また来てもらう。だから、色んなかたちでの連携がありますので、奈良等との連携も含め、真ん中に連携（広域連携）という意見かと。それから、いわゆる関係人口、人との関係をつなぐという意味での連携もあるし、色んな観光の場合は使えるんですよね。だからしっくりくるんです。あとどうですか。

（副会長）

いま河川改修を進めていますので、例えば、そこに大きな道の駅ができるとすると、地場産野菜を販売したり、伊賀と名張の良い商品を並べ発展の場所にするなど、そのようなことをメインにして考えてもらえたらと思います。

（委員）

名張市と伊賀市が共同でしている伊賀米や伊賀牛について、商工会の関係で県内色んな交流があって感じることは、旧上野市が伊賀市になったことで、伊賀米、伊賀酒、伊賀牛で、どうしても伊賀市が目立ってしまいます。名張で同じものをつくっていますが、伊賀でしょとなります、イメージで。日本酒などは名張の方が多いと思いますし、伊賀牛も名張で力を入れているところもありますが。我々も名刺に、名張とその産物を載せますが、伊賀牛を載せるとイメージとして伊賀になってしまうところがあります。名張独自のものを何かしらつくっていかないと、どうしても伊賀市の二番煎じになってしまう。忍者にしてもそうなんです。伊賀の方がプロモーション的に、元々伊賀と甲賀があって、名張の人からすれば名張の方が発祥の地なのにという認識はあります。イメージの部分でいくと、名張は二番煎じでいってしまっている部分があり、これを押し上げようと思ったら名張独自のブランドを確立しないと、イメージだけでいくと、多分伊賀市が上がってくると思います。

（会長）

伊賀と連携すればするほど、伊賀の知名度が上がっていく、名張は二番煎じみたいな感じになってしまう、そういうリスクもあるということですね。

（委員）

そうです、そういうリスクはあると思います。イメージ的に伊賀牛って伊賀市でしょというイメージが強いので。

（会長）

だから、ある意味シティプロモーションと北川市長が強く言うのはそこだと思います。逆に言うと、市独自のシティプロモーションが弱すぎたのではないですかね。いずれにしても、名張という名前が、名張のものだということが、外へ伝わってなくて、伊賀で一括りになっていて、しかもアピールすればするほど、伊賀の知名度がどんどん上がって、名張ってどこみたいな感じになって、こういうジレンマが名張の人にもあったのではないかと思うので、シティプロモーションの方向で、抜本的に変えていかないと、場合によっては分離するような。そこまで踏み込まないと、難しい面もあるという考え方ですね。

（委員）

分かるのですが、私は小さい頃から伊賀名張と一括りできましたので。

（会長）

昔は上野市でしたよね。

（委員）

上野市です。伊賀地域として、伊賀の名張市みたいな感じで。

（会長）

ああ、伊賀地区の名張。

（委員）

伊賀市の方が強いのは分かるのですが、伊賀地方にある名張市なので。名張の酒蔵のお酒が伊勢志摩サミットで使われ、そういうことをお客さんに説明すると「ああ、そうか」と。伊賀ばかりが強い訳でもないように思っており、少し販売側のアピールややり方が弱いのかなと思います。アンテナショップのようなことをしていますが、本当に名張のものは良くて、美旗メロンもそうですが、名張の農家さんのつくるものは本当に美味しい。ＪＡも伊賀ふるさとで伊賀というのを外す訳にはいかないと思うので、それこそ共生で、伊賀地方にあるということで。

（会長）

伊賀ブランドをメリットにして、名張もしたたかにやっていこうという感じですね。

（委員）

それが良いと思います、売り込んでいくなら。

（会長）

ただ、今の話しを聞くと、伊賀の知名度は全国区で、やはり名張の知名度は低いです。皆さん、その辺りはある程度自覚され、しょうがないと。シティプロモーションにも、そういった少し消極的なところがあるのですかね、伊賀はどんどん外に出していくのですが。例えば、お米は産地でブランド化ができます。場合によっては、伊賀米の中の名張地区で収穫されたお米は美味しいということもできたりします。そういうことも含め、やはりシティプロモーションがもう少し必要ですね。行政がすべてやるのではなく、このシティプロモーションの発想は、市民の皆さんがＰＲしたり、コンテンツを共有するということになります。外への発信ももちろんですし、まず、名張の人が名張のことを知らないと。一番大きな問題のような気がするので、ここですよね。おそらく情報を敏感にキャッチしている人はごく一部で、皆さん名張のことをあまり知らずに、名張にいらっしゃるというか、名張の良さも含めて。興味を持ってもらうことが大事で、そういった発想がシティプロモーションに近づいていく。もっと内部で市民自身が名張のことを知ってと。

（委員）

伊賀市は本気で情報発信に取り組んでいるという話しを聞きました。人材を蓄えてどんどん発信すると。

（会長）

おそらく向こうはそれなりに人とお金を注ぎ込んでいるのではないかと思います。トップの考え方もあり、メディア出身の市長ですから発信は上手だと思います。

（事務局）

少し確認させていただきたいと思います。共生、参画、連携、本日そのような意見が出てきました。これは、重点プロジェクトというよりも、１０年後の目指す姿のキーワードと思っているのですが、そこに、高校生からの提案も参考とし、共生、参画、連携を少し取り入れさせてもらうということでよろしいでしょうか。

（会長）

これ（高校生からのフレーズ）は、基本構想のおそらく将来像に該当することなんですね。

（事務局）

そう思っています。その中に共生、参画、連携の考え方を盛り込ませてもらい、プロジェクトは、特化したものになりますので。共生、参画、連携は、目指す名張の将来像の参考に使わせてもらった方が良いかなと思います。

（会長）

重点プロジェクトは、実際的な政策や事業に該当するので、ただもっと具体的な協議をしない

といけません、産業なら産業について。ですから、そう考えると今のこちら、高校生の発想は目指す名張の将来像に該当するものなので、このまま運用するかどうかは別として、そこに、共生、参画、連携を足しこんでいただいて、その下の基本目標に該当するところに、それらの表記を一部使うことができるのかなと。三重県の計画の場合も同じようなかたちで、目指す姿があり、その下に基本方向があり、こういう地域を目指すというかたちが書かれています。よろしいでしょうか。皆さんの出していただいたキーワードを将来像あるいは基本目標に少し発表させていただくというかたちです、プロジェクトにそれが入るかどうかは分からないです。シティプロモーションも大事だということは分かるのですが、いま真ん中にありますが、落とし方がこれで良いのかと。中心がいいのか、外側全部を取り巻く感じの方が良いのか、それともこのつなぐという線の部分がシティプロモーションに該当するのか。この辺りは事務局と相談させていただきたいと思います。あと、産業のまち、安心・安全なまちとなりますが、産業は、皆さん異論はないのかなという感じがしていて、ここには農業も入り観光も入り、その他の色んな産業が入ってくるんですね。もう一つの安心・安全については、防災防犯という安心・安全の本来の目的と、それから、子育て、医療・福祉も今のところ含んだかたちになっていますが、これを分けて、例えば、子育てにしてしまうか、あるいはこのまま使うか、安心・安全で良いのか、皆さんからいただいた意見を反映させるという前提も踏まえ、この辺りも事務局と相談させていただきたいと思います。

（副会長）

高齢者も入れないといけないのではないか。

（会長）

重点プロジェクトなので。計画自体は全部やります。ただ、特に力を入れますというところだけを特出ししたということなのですが。やらない訳では全然無くて。

（副会長）

言葉として子育てを別枠にすると、他のを入れないといけないとなるので、安心・安全に何が含まれるかとかという説明があった方が良いのではないでしょうか。

（会長）

確かに重点プロジェクトに色んなものを沢山入れたいなら、この曖昧な表記の方が入っているというイメージはします。子育てとしてしまうと、子育てだけになります。

（副会長）

それなら高齢者福祉はどうなる、となりますから、この安心・安全に何が含まれるとかを整理する方が。この参画は、多様な人材を育てていくとかだと思いますが。

（会長）

重点プロジェクトは、名張の個性が一番出るとこなので、例えば、子育て支援が重点プロジェクトにあったら、高齢者支援をやらない訳ではなく、名張はとにかく子育て支援に力を入れているのだなと、外部の人に分かります。ですから、戦略的に入れるというのも一つのやり方です、本当に名張が子育てに力を入れてやるということであれば。ただ、そうでないなら、あまりお勧めはしません。他の地域より更に子育て支援を強くやらないならば、安心・安全なまちの中にとも思います。それから、若者参画もそうです。あえて、若者参画を入れてるということは、他の地域との差別化なんですね。若い人が他の地域よりも更に名張の参画を助け、まちづくりをしたいという意思表示なので。例えば、これを世代連携型のまちづくりとしてしまうと、ぼやっとしてしまうし、高齢者も色々な方が入ってくるという意味にとれますが、インパクトは減ってしまいます。この辺りが行政として難しいところだと思います、尖らせるのか、比較的穏便につくっていくのか。皆さんとしては、どうでしょうか。比較的色んなものを包括した方が良いという考えか、それとも先鋭的にやっていくんだという姿勢を示した方が良いのか。どう思われますか。

（委員）

力を入れるところをある程度明確にした方が。メリハリを付ける方が、やりやすいのはやりやすい。全体的にぼやけてしまうと、あれもこれもやってと、中途半端で終わりかねないのかなというところもあるので。ある程度の明確さは必要と思います。

（会長）

三重県とかはどうですか。

（委員）

県の場合ですと、ビジョンが大きくあって、その下にプランがあります。重点プロジェクトは、基本計画の中で大きな柱があり、まず最初に柱を作ります。大きな柱の中に、また細かく何本かあって、そのプランの中には、また細目で５６の施策があったりとか、事業が何百とあります。ある程度、大きなものをやっていきましょうというのが重点事業という言い方です。何をどうしていくのかは、ある程度具体的に書いています。例えば、安心・安全になると、防犯もあれば、暮らしの安全ということで、高齢者の暮らしと安全、防犯的な安心・安全もあります。

（会長）

目指す姿、それから基本構想をしっかりつくり、その中で特に重点的にも取り組むべきものとして例えば３～４つ挙げていく、そういうやり方ですね、県は。ですので、今の話しを少しまとめますと、この後ろに書いてある高校生の提案を含めて、まずは目指す名張の将来像をある程度確定し、１０年後を含めて、こんなかたちでいくと、具体的なイメージを共有します。その次に、基本目標、あるいは基本方向でも良いのですが、ある程度の柱立てになるものを４～５本つくって。名張はこんなまちを目指しますというイメージですね、これを４～５つ。本日、色々皆さんからご意見が出ましたので、ある程度整理すると、自然というキーワード、安心・安全、若者、

世代連携という言葉もありました。それから、広域的なつながり、それらを含めた柱が４～５本できます。そこから、今度は改めて重点プロジェクトとして、特に施策として力を入れるべき３～４つのものを抽出して、プロジェクトとして掲げます。皆さんの話しを聞いていて、産業別に大事ですという考えは伝わってきました。特に、観光であったり、農業であったり。それからもう一つ、まちづくりに関してですね。特に若い人を中心に、世代間で色々とお互いに尊重してと。この辺りのコンセンサスはできていると思います。それから、市民の皆さんや市職員の方の要望が多かったのが、医療、福祉、こういった点。これを重点プロジェクトのどこかに入れておかないといけないのか、この辺りも整理いただいて。あとは広い意味で、それらを包括するシティプロモーションという考え方ですね。もっと名張を愛し、名張を知ってもらうという戦略を載せていく、そのようなイメージかなと感じします。事務局にお願いですが、次回までに将来像や基本目標に該当するものを整理いただいて、皆さんのご意見、高校生の意見も含めて、まとめていただきたいと思います。その中から今度は、重点プロジェクトを３～４つ出して、その後、今日の資料のポンチ絵みたいになっていますが、どういう絵が良いのかを皆さんと一緒に考えていければと思います。ということで、今日皆さんから意見をいただいて、まとめさせて頂きました。本日の会議ですが、ディスカッションの部分は、これで終了とさせていただきます。事務局の方にお返しをしますので、事務的なご連絡等お願いします。

４．次回の日程調整

５．その他

（事務局）

○本審議会と並行して、新たな総合計画策定について、地域づくり代表者会議へ説明等を実施しているが、本市において地域共生の実践的な取組をいただいている地域づくり代表者の方にも本審議会にお入りいただきたい旨を事務局より説明し、次回の審議会よりお入りいただくことを了承いただく。

○次回審議会は１０月を予定していたが、８月下旬もしくは９月上旬に実施したい旨、事務局よりお願いし、後日日程調整を行うことで了承いただく。

以上